

(様式3)

学校評価報告書

中間・年度末

令和7年度 内灘町立内灘中学校

- ①よくあてはまる ②あてはまる
 ③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない

目標	主な具体的取組	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価(①+②)	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の向上	授業力の向上	生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 94.7	47.4	<p>○昨年同様、「わかりやすい授業」を行うことについては、教師・生徒ともに肯定的な回答は高い。保護者・生徒ともに1回答がかなり上昇している。</p> <p>・学校研究のポイントである「見通しをもたせる指導」「自己決定の場の設定」を通して主体性を育てる指導に注力していく。</p>
		学校は、分かりやすい授業づくりや学力向上に努めている。	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 92.7	26.5	
		授業は分かりやすい。	児童生徒アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 96.0	47.9	
	家庭学習の定着	家庭学習の習慣が身につくように指導している。	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	C 75.7	21.6	<p>◆昨年度後期から教職員の肯定的回答は7.2ポイント上昇しているが、生徒は11.2ポイント下降している。</p> <p>・小まめな宿題を出すだけではなく、遠回りであるがキャリア教育のなお一層の充実をはかっていく。</p>
		我が子は、家庭学習の習慣が定着している。	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 52.4	14.2	
		家庭学習の習慣が身についている。	児童生徒アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	C 64.0	49.6	
	ICTの活用推進	1人1台端末を積極的・意図的に活用するよう工夫している。	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	C 64.1	23.1	<p>○昨年度後期から、教職員の肯定的評価は7.7ポイント下降している。</p> <p>・数字の上下のみで評価せず、校内研修と教科部会で効果的な活用を共有していく。</p>
		授業中に1人1台端末を進んで使っている。	児童生徒アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 90.0	49.1	
学校評議員による意見		家庭学習の指導について、学習意欲の低い生徒にどのようにしどうしていくのかが難しい。「こまめな宿題」の考え方には納得できるが、教員の宿題チェックにかける時間が増え、教員の負担増加が心配である。また、課題解決型学習が増えることにより、ドリル学習が減っていないか。メリハリのある指導計画が必要である。自学ノートを廃止したことはよい。形骸化している取組は変更すべきである。					

(様式3)

学校評価報告書

中間・年度末

令和7年度 内灘町立内灘中学校

①よくあてはまる ②あてはまる
 ③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない

目標	主な具体的取組	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価(①+②)	①	○成果 ◆課題 ・改善策
豊かな心の育成	道徳教育の推進	道徳の授業を中心に <u>豊かな心を育むよう努めている。</u>	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 93.8	34.4	・県の研究指定から2年経過し、職員の肯定的評価は若干下がっているが、保護者は上昇している。教科指導、総合的な学習と同僚、学校全体で生徒の傾聴スキルを向上させる。
		学校は、道徳の授業を中心に <u>豊かな心を育むよう努めている。</u>	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 95.1	20.7	
	学校評議員による意見	傾聴の姿勢を身につける指導がややトーンダウンしていることが気になる。道徳の研究から2年が経過していることが原因と考えられるが、重要なコミュニケーションスキルであるため、継続的な指導が必要である。					
生徒指導の充実	教育相談体制の充実	いじめや不登校等の問題に対して組織的に取り組んでいる。(学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況)	教職員アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が90%以上 C:①+②が85%以上 D:①+②が85%未満	A 100.0	74.4	○全校集会での校長講話の中で、「自他の人格と命を大切にすること」について、状況や言葉を変えながら毎回のように話をしている。生徒会の取組「ひまわりプロジェクト」で、いじめ未然防止の取組について話し合っている。 ・生徒は「いじめはどんな理由があってもいい」と思いながら、「自分が正しい。相手が間違っている」と思ったときに、相手に対する言動がきくなる傾向がある。様々な場面で多角的思考を意識させていく。
		学校は、いじめや不登校等の問題の解決に向けて積極的に取り組んでいる。	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	B 86.2	23.8	○「学校へ行くのが楽しい」への生徒の肯定的回答の割合が前期同様、高い値で推移している。 ・「上手くいかないことも含めて自己を肯定できる」よう、生徒よさ、やろうとしている姿勢を褒めていく。
		学校に行くのが楽しい。	児童生徒アンケート	A:①+②が95%以上 B:①+②が85%以上 C:①+②が75%以上 D:①+②が75%未満	B 89.1	52.8	
	学校評議員による意見	生徒のよさを褒め、認める指導を継続的に実践していることはよい。また、否定的回答の生徒たちを意識して声かけをしていることもよい。褒めて認めと注意のバランスが難しい。人間関係の構築を前提に、指導をしていただきたい。					
安心で健やかな教育の充実	安全指導の充実	危機管理意識を高くもって、安全な学習環境の整備や日常の安全指導を行っている。	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 100.0	65.0	○今年度もアクションカードを用いた学校事故への対応に関する研修を全職員で行った。研修で出た課題を活かして、アクションカードの修正を行うことができた。 ・今後も校内研修を継続し、職員の当事者意識を高いレベルで保つ。
		学校は、安全な学習環境の整備や不審者対策などに危機意識をもった取組をしている。	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が75%以上 C:①+②が60%以上 D:①+②が60%未満	A 95.9	36.9	
	学校評議員による意見	生徒の命を守るために、緊急時の対応について研修を重ねていることはよい。今後も継続していくことを期待している。 夏季のスクールバス南部便については費用の問題もあり、難しいと思われる。日傘を推奨する等、熱中症対策を行ってほしい。					

(様式3)

学校評価報告書

中間・年度末

令和7年度 内灘町立内灘中学校

- ①よくあてはまる ②あてはまる
 ③あまりあてはまらない ④まったくあてはまらない

目標	主な具体的取組	評価の観点	評価方法	実施状況の達成度判断基準	評価(①+②)	①	○成果 ◆課題 ・改善策
開かれた信頼される学校づくり	学校情報の開示	各種便りや学校HP等で、学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えるよう努めている。	教職員アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 100.0	52.6	○職員、保護者ともに肯定的評価は高い。 ・生徒の活躍は勿論だが、学校の考えていること、工夫して行っている指導の様子を積極的に発信し続ける。
		学校は、各種便りや学校HP等で、学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えている。	保護者アンケート	A:①+②が90%以上 B:①+②が80%以上 C:①+②が70%以上 D:①+②が70%未満	A 97.9	38.2	
	学校評議員による意見	ホームページはタイムリーに更新されており、学校が取り組んでいることや生徒の様子がわかるようになっている。					
教職員の業務適正化に向けた取組の充実[働き方改革]	町教職員働き方改革方針の目標達成	時間外勤務は、1ヶ月45時間以下である。	教職員アンケート	A:①が80%以上 B:①が65%以上 C:①が50%以上 D:①が50%未満	D 31.0		●4~6月の時間外勤務について、1ヶ月45時間以下の職員は、昨年度同期と比べて6.5ポイント減少している。また、上限80時間を超えている職員も10.5ポイント増えている。人事異動による校内での役割の変化等が要因の一つと考えられる。 ・引き続き「教育的意義のあるものの中から優先順位をつけて選択し、余裕を生み出す」ことに挑戦していく。生み出した余裕を生徒と向き合う時間に充て、新たな価値を見い出したい。
		時間外勤務は、最も多い月で上限80時間である。	教職員アンケート	A:①が80%以上 B:①が65%以上 C:①が50%以上 D:①が50%未満	B 70.7		
	学校評議員による意見	ここ数年、時間外勤務が順調に減っていることがよい。形骸化した取組があれば改善し、職員の負担軽減につなげてほしい。					